

# 農業資材 EXPO “アグリテック” 盛況開催中

10月11日から13日まで、幕張メッセ（千葉県）でアグリビジネス関連の展示会が開催されている。農業ワールド2017として農業資材 EXPO、次世代農業 EXPO、昨年より拡大した6次産業化 EXPO と農業関連では国内最大級の展示会となっており合計約800社もの農業資材関連会社が出展、うち新規出展は150社を数え、回を増すごとに出展社数も増加している。その中で第7回国際農業資材 EXPO 内に昨年に引き続き当社も関連各社と共にブースを出展している。当展示会には今回も多数の出展があり、梱包・物流資材、鳥獣害対策、畜産資材、農業機械、施設資材、肥料・培土のブースで展開されている。例年と比較して今回は中国、韓国、台湾等近隣諸国からの出展がさらに拡大し商談ブースは活況に満ちていた。来訪される招待客も国内・海外問わず国主導の招待客も増加しており諸外国含め農業に対する国際意識を強く感じた。昨年と同様、ITを活用した機械類・植物工場、大型ドローンなど進化した農業機器 IoT を取り入れた次世代農業についてのセミナーが開催されており、参加者の熱心に受講している姿が印象的であった。今回から第6次産業化や農業法人に関係する新たなブースが目立ち、新たなアグリビジネスとして注目されている様子が伺えた。

当社は被覆資材・省力化肥料・高機能水稻培土を中心とした担い手の作業軽減を目的とした資材を展開している。当社取り扱いの肥料を集合した肥料タワー（右写真）がアイキャッチとなり、従来から取引のあるホームセンターは勿論の事、農材店・農協・生産法人に留まらず、中国・韓国・ミャンマーなどアジア諸外国の来訪者も増えており、

安心・安全な高品質な国産品を求める国内・海外農業関係者との商談を行っている。農業をビジネスと捉え関心の強さを改めて認識した。本 EXPO は13日（金）

まで開催されておりますので、関心のある方は是非会場へ足をお運び頂き最新の農業事情を肌で感じとって頂きたい。ご来場の際には、当社ブースにもお立ち寄りください。



# ハトムギで地域農業を活性化

## 株式会社高田肥料店（栃木県）

東京では22日連続雨日記録が破られた次の日、全国より60名のハトムギに携わる関係者が集い猛暑の栃木県小山市にて小山市、栃木県下都賀郡農業振興課共催で全国ハトムギ生産技術協議会夏期研修会が開催された。ハトムギはイネ科の穀物で中国南部からインドシナ半島が原産とされている。ハトムギが一躍注目を浴びたのは、1982年に元プロレスラーでタレントのマッハ文朱氏がハトムギでダイエットに成功したことがきっかけ（ハトムギを原料に扱う食品加工業界では第一次ブームと呼んでいるらしい）で、近年ではヨクイニン（種皮を取り除いた成熟種子で生薬の一種）が美肌にいいとされサプリメントで注目されたり、ハトムギ茶やシリアル食品、もちむぎ等で健康食品として聞くようになった。第一次ブームと同じくして1981年に減反政策の一環として水田転作作物の特定作物として認められた事がきっかけとして栽培が広がり、平成24年統計では全国で約650ha栽培され、富山県や岩手県、栃木県が主産地となっている。栃木県では1983年に鹿沼市において70aの作付が開始された。

現地研修会場の小山市（栃木県南部地域）は主にイネとムギの輪作体系で栽培されているが、水田利用再編対策でムギと大豆の作付体系も推進されている。しかし、大豆は湿度に弱い事と連作をした場合、水田利用ではダイズシストセンチュウが発生しやすく、なかなか大豆の転作がうまくいってないのが現状だ。よって、転作作物として大豆の代わりにハトムギの関心が高まったようだ。小山市では現在、10a当たり1万5千円の補助金を出して転作奨励と産地化を推進している。平成17年に「小山ハトムギ生産組合」を組織化し現在14名で作付が展開されている。その生産組合の先頭に立って作付指導やハトムギの販売に尽力しているのが栃木市にある（株）高田肥料店である。高田社長は全国の参加者に対して惜しげもなく栽培についての取組方法を披露された。全国におけるハトムギの10a当たりの平均的な収量は200～250kg、キロ当たり250円程度で加工業者に販売されている。ハトムギはトウモロコシに近いせいか、シンクイ虫の被害に遭うと大きく減収になってしまう。使用可能な農薬の登録数も少ないため管理には気を付けて栽培することが必要だそうだ。そんな繊細なハトムギだが、高田肥料店は反収500kgを目指した栽培方法を提案しており、適切な防除管理と肥培管理においてはエムシー・ファーティコム社の総合微量要素肥料ハイグリーンを勧めている。ハイグリーンを施肥することにより、ハトムギの受光態勢を高めて肥料の吸収を促進させ、また適切な追肥が増収につながるとして全国から参加した参加者に熱弁を奮っておられた。実際に当組合では他県よりも単収は取っているようだ。このためか、生産者も高田社長を慕っておられる方々が多く今回の現地研修会でも生産者総出でお迎えし活発な意見交換がなされチームワークの良さが発揮された研修会であった。現地研修会に参加されたハトムギを利用・推進してきた加工食品業者の方々は今後とも新たな活用方法を模索、提案しマスコミを通じて認知度を高める活動も合わせて行いたいとの抱負を述べられていた。ハトムギの認知度が増し、さらなる産地の拡大につながるよう祈念したい。



栽培指針を示した看板を前に熱弁を振る高田社長



### 《 創立記念日休業のご案内 》

来る **10月20日（金）** は弊社創立記念日につき休業とさせていただきます。皆様にはご迷惑をお掛け致しますが、ご注文等のご連絡はお早目に頂けます様、お願い申し上げます。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>